胸部症状のない糖尿病患者の心臓障害に関する検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/15080

学位授与番号	医博乙第1194号
学位授与年月日	平成5年1月20日
氏　　名	前野孝治
学位論文題目	胸部症状のない糖尿病患者の心臓障害に関する検討
論文審査委員	主査　教授　小林健一
	副査　教授　竹田亮祐
	教授　松田　保

内容の要旨および審査の結果の要旨

糖尿病患者の無痛性心筋虚血の頻度，それに関与する因子および臨床的意義を明らかにするため，胸部症状のないII型糖尿病患者103例を対象に、^{201}Tl運動負荷心筋シンチグラフィを施行し陽性群と陰性群で臨床像，トレッドミル運動負荷試験，心エコー図，ホルター心電図所見を比較検討し，さらに17例に冠動脈造影を施行した。得られた成績は次のごとくである。

1．^{201}Tl運動負荷心筋シンチグラフィでは43例（42%）で陽性所見が得られ，うち28例は一過性欠損（T群），15例は持続性欠損（P群）であり，60例（N群）には欠損像はみられなかった。

2．臨床像の比較では，高血圧の合併頻度はT群ではN群に比し有意に大であった（$p<0.01$）。またT群ではP群，N群に比較して深呼吸時心拍数変動で評価した自律神経機能が低下していたが，他の冠動脈危険因子，糖尿病合併症には3群間で差はなかった。

3．トレッドミル運動負荷試験の陽性率は，T群がN群に比し有意に高頻度であった。また，T群ではN群に比し，運動耐容能が低下していた。

4．ホルター心電図では、^{201}Tl運動負荷心筋シンチグラフィ陽性群（T群＋P群）で無症候性心筋虚血の発作が高率にみられた。その出現時間帯は夜間に比べ日中で多く，発作時心拍数は1日平均心拍数よりも大であった。

5．心エコー図による左室機能の評価では，拡張能の指標である拡張期僧帽弁後退速度，左室後壁後退速度は陽性群（T群＋P群）が陰性群（N群）に比し低下していたが，収縮能の指標には両群間で差はなかった。

6．運動負荷試験陽性17例に施行した冠動脈造影では，6例に有意狭窄がみられたが他の11例では有意狭窄はなかった。

以上より本論文では，胸部症状のない糖尿病患者に高頻度に心筋虚血がみられ，これらの症例ではすでに運動耐容能の低下と，左室拡張能の障害が存在することを明らかにし，日常の診療に対して重要な示唆を与えている。また高血圧の合併と心病変の出現との関係を示唆しておりこの種の今後の研究に一つの展望を与えるものと評価された。